

# 5.8 友だちってなんだろう

## 1. 題材設定の理由

学年が進むにつれて、お互いの価値観の違いや、生活経験の違いなどから、不特定多数の友人関係から特定の友だちを持つとする傾向がでてくる。そんなとき自分の都合のよいように仲間を利用したり、自分の要求ばかり押しついたりするような人間関係をつくらせないためにも、真の友だちとは何かを考えさせることは大切である。困ったときには助け合い、相手が間違った方向へ進もうとしたときに、相手のことを思いやって語ることができる人間関係をつくらせたい。

## 2. 指導のねらい

児童の作文から、なぜ友だちに悩みを打ち明けるのかを考えさせることによって、真の友だちとは何かを考えるきっかけとさせたい。

## 3. 指導計画（全1時間）

本時	・真の友だちとは何かを考え、今後の仲間づくりに生かす。
事後	・学校生活の中でお互いが高め合える友だちを見つけることができる。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・悩みを打ち明ける相手として友だちの割合が多いことから、友だちの存在感を意識することができる。	◎悩みや心配事の相談相手の資料を見て、わかることを発表する。 ◎なぜ友だちが一番多いのだろう。 ・話しやすい。 ・気持ちがわかり合える。 ・はげましてくれる。	・小学生から中学生に成長していくと、相談相手が両親から友だちへとかわっていく理由を考えさせる。	グラフ等
課題：本当の友だちとはなんだろう。				
中心の活動	・真の友だちとは何かを考えることにより、真の友だちとは都合のよいときだけ接するのではなく、お互いが常に高め合える存在であるということを意識させる。	◎児童の作文について感想を書く。 ・わざとふざけて掃除ができないようにされても、思い切って話したのはよかった。 ・仲が悪くなっていても話しかけたら、協力できてよかった。 ◎「真の友だちとは」について自分の考えを発表する。 ・楽しいとき、つらいとき気持ちを分かち合える。 ・厳しいことも言い合える。 ・間違ったことをしたときに注意し合える。	・児童の作文から感想をもたせる。話し合うことの大切さや、協力することの大切さにも気づかせたい。 ・ただ慰め合うだけとか、都合のよいときだけの関係は真の友だちではないということを理解させる。	ノート① ノート② ノート③
まとめ	・教師の経験を聞き、これからの生活に生かすことができる。	◎教師の経験を聞く。 ・たくさんいることがいいのではない。 ・お互いが高め合える存在。	・友人関係で失敗した話や、考えさせられた話をするによって児童がこれからの友人関係を考えるもとにさせたい。	
事後	・学校生活の中で仲間を意識した活動を体験し、真の友だちとは何かを理解する。	◎学級遊びや学級活動などの場面で相手の気持ちを考えて行動する仲間を紹介したり、助け合いができた場面を発表したりする。	・学級遊びや学級活動などでお互いの気持ちを語り合える場面をつくる。	

《説話例》先生にも、小学校時代からの友だちがいます。小学校の5年生と6年生が一緒の組でした。あるとき、友人関係のことで、わたしが困ったことがありました。それは、わたしがいる子の消しゴムを捨てたのがきっかけでした。捨てた消しゴムがあまり綺麗ではなかったので、『だれのですか。』と一声聞いただけで、捨ててしまったのです。それから、しばらくして「あの子がわたしの消しゴムを捨てた。」という声を聞きました。わたしは、決して意地悪をしたわけではないのですが、捨ててしまったことは良くないとは思いました。しかし、はっきり『自分のもの』と言わなかったことも悪い

と思いました。毎日、どうやって言おうかと考えていました。そのとき、声をかけてくれたのが、その友だちです。「あの消しゴムを、『わたしのです。』とは言えないよ。でも、言おうかどうしようかと迷っている間に、すぐ捨ててしまわれたので、怒っているんだよ。ちょっと、相手の気持ちを考えなかった、あなたも悪いよ。素直に、一言謝ったらすむのに。」と助言してくれたのが、大変嬉しかったことを、覚えています。今でも、困ったときには電話を入れます。時々「あなたが、悪い。」と言われてしまうこともあります。年に一度は、温泉に一緒に行ったり、時々買い物に行ったりしています。